

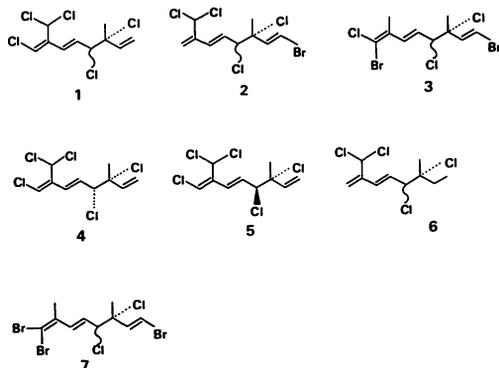
吉田忠生*・松江英樹**・福沢晃夫**：紅藻ユカリに含まれる含ハロゲンモノテルペノイドについて Tadao YOSHIDA, Hideki MATSUE and Akio FUKUZAWA: Polyhalogenated monoterpenes from *Plocamium telfairiae* (Rhodophyceae, Plocamiaceae)

ユカリ属 *Plocamium* の種が含んでいるモノテルペン類化合物については、すでにいくつかの報告がある (MYNDERS and FAULKNER 1975, CREWS and KHO 1974)。しかし成分が調べられた種類はまだあまり多くはないし、日本産の種については、これまで研究されていない。日本沿岸に産する種のうち、ユカリ *P. telfairiae* について予備的な研究を行なったので報告する。

1980年9月7日神奈川県鎌倉市稲村が崎海岸に打ち上げられていたユカリ (400 g wet weight) と10月2日に宮城県松島湾の石浜水道で潜水採集した材料 (50 g w. w.) を分析に供した。藻体を濾紙に挟んで水分を除き、メタノールまたはアセトンにより抽出し、濃縮後、水溶性部とヘキサン可溶部に分離した。ヘキサン可溶部をシリカゲルクロマトグラフィーにかけ数フラクションに分けたのち、GLC および GC-MS により成分検索を行なった。

その結果、鎌倉産の材料から含ハロゲンモノテルペノイドとして1, 2, 3に示す構造のものが確認され、一方松島湾産のユカリからは4, 5, 6, 7が成分として見出された。これら化合物のうち、1, 4, 5, 7はMYNDERS and FAULKNER (1975) によって報告されている既知の化合物であり、残りの2, 3, 6はマススペクトルおよびNMRスペクトルによる推定構造である。この他にも含ハロゲンミルセン型モノテルペンを含有していることがわかっているが、今後多量の材料によって更に検討しなければならない。

2個所の材料からだけの予備的な研究の結果からも、含有成分の地域差が明らかになった。この様な例はす



で CREWR *et al.* (1977) によってカリフォルニア産の *P. violaceum* について報告されている。日本産のユカリについても同一種内に chemical types と呼ぶべき差を認めることが必要かどうか更に詳しい調査が必要である。(*060 札幌市北区北10条西8丁目北海道大学理学部植物学教室, **同 化学教室)

引用文献

- CREWS, P., CAMPBELL, L. and HERON, E. 1977. Different chemical types of *Plocamium violaceum* (Rhodophyta) from the Monterey Bay region, California. *J. Phycol.* 13: 297-301.
- CREWS, P. and KHO, E. 1974. Cartilageneal. An unusual monoterpene aldehyde from marine alga. *J. Org. Chem.* 39: 3303-3304.
- MYNDERS, J. S. and FAULKNER, D. J. 1975. Polyhalogenated monoterpenes from the red alga *Plocamium cartilagineum*. *Tetrahedron* 31: 1963-1967.